

## 自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20790390

研究課題名(和文) 医学部入学者選抜における態度評価項目・尺度の妥当性に関する研究

研究課題名(英文) Validation of Attitude-Evaluation in Admission Examination for Medical School

研究代表者

大塚 智子 (OTSUKA TOMOKO)

高知大学・教育研究部医療学系・助教

研究者番号：70335933

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：医学・薬学教育，入学者選抜

## 1. 研究計画の概要

コミュニケーション能力の低下など医学生  
の「情意・技能面」に関する能力の低下は、  
現在われわれが直面する問題の一つである。  
こうした問題は、入学後の教育によっても改  
善が難しく、したがって入学時での選別の必  
要性が叫ばれている。本研究では、高知大学  
医学部が行う態度・習慣領域評価型の入試  
(AO入試)のデータをもとに、入学者の動  
向を在学中、卒業後まで長期にわたり継続的  
に追跡調査・解析し、態度評価の評価項目と  
評価尺度の妥当性を検証するものである。

## 2. 研究の進捗状況

入学後、態度・習慣領域について学生間で相  
互評価を行い(学生間ピア・レビュー)、AO  
入試選抜時における態度評価との相関を調  
べ、選抜時評価尺度の妥当性を検討した。  
また、入試選抜ごとにピア・レビュースコア  
を比較し、AO入試において態度・習慣領域  
に優れた学生が選抜できているか検証した。  
現在までに、平成15、16年度入学者の解析  
が終了している。

(1) AO入試入学者における学生間ピア・  
レビューと選抜時態度評価の相関

AO入試入学者における、学生間ピア・レ  
ビューと選抜時態度評価の相関は、2年次よ  
りも6年次スコアで正の相関が高く顕著とな  
った。

(2) 入試選抜ごと(AO, 教科型方式, 問  
題解決能力試験方式)のピア・レビュースコ  
ア比較

平成15年度AO入試入学者については、2年  
次ピア・レビュースコアが教科型方式群に比  
較し有意に高いことが明らかとなった  
( $p<0.01$ )。ピア・レビューのいくつかの項

目においては、問題解決能力試験方式群との  
間にも有意差が認められている。

平成16年度入学者については、2年次ピア・  
レビュースコアはAO入試入学者群が問題  
解決能力試験方式群に比較し有意に高いこ  
とが明らかとなった( $p<0.05$ )。ピア・レ  
ビューのいくつかの項目においては、教科型方  
式群との間にも有意差が認められている。  
6年次ピア・レビュースコアはAO入試入  
学者群と他の選抜群との間に有意差が認め  
られにくい結果となっている。この原因とし  
て、AO以外の選抜群においては、留年・退  
学者が多く見られ、これらデータを6年次  
解析において排除したことが影響していると  
考えられる。

## 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

学生間ピア・レビューは既に行っているもの  
の、臨床研修先ピア・レビューの準備に際し  
、当初予定していたよりもやや長い時間を要  
し、当初予定したスケジュールよりも若干の  
遅れが生じている。

## 4. 今後の研究の推進方策

臨床研修先でのピア・レビュー調査について  
、現在、準備中である。本調査のデータを合  
わせ解析・検討を進めたい。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

- ① 八木文雄、大塚智子、医学科入学者の入学後 6 年間に於ける各種動向の長期間継続的追跡調査による解析、日本医学教育学会入学者選抜委員会 第 24 回入学者選抜に関する討議会 2009 年 6 月 20 日、慶応義塾大学医学部（東京都）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：